
第 37 回日本神経科学大会
Neuroscience2014

協賛シンポジウム
募集要項

2014 年 9 月 11 日(木)～13 日(土)

パシフィコ横浜

第 37 回日本神経科学大会/Neuroscience2014

大会長 高橋 良輔

(京都大学大学院医学研究科・臨床神経学)

第 37 回日本神経科学大会の開催にあたって

謹啓 時下ますます清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、第 37 回日本神経科学大会が Neuroscience 2014 として、2014 年 9 月 11 日（木）から 13 日（土）の 3 日間、パシフィコ横浜において開催されることになりました。

本大会を主催する日本神経科学学会の前身である日本神経科学協会は、1974 年 10 月、我が国の神経科学の振興を目的として設立され、1978 年に第一回学術集会を開催しました。それ以降、本大会は基礎から臨床に及ぶ幅広い分野の神経科学研究者の研究発表や情報交換の場として、順調に発展を遂げました。会員数わずか 70 名で出発した日本神経科学協会は 1991 年からは日本神経科学学会と名称を変更し、2013 年 5 月現在、会員数 5800 名を越える、我が国の神経科学界を代表する学会に成長しました。

2014 年は学会設立 40 周年となります。この節目にあたる年の大会では、今後も果てしない発展の可能性を秘める神経科学のパワーを感じていただきたいと思い、「**神経科学が世界を変える**」（“**Neuroscience Will Change the World**”）をテーマとしました。分子、細胞、神経回路と異なる階層での神経系の理解を進める手段として、例えば蛍光タンパク質による細胞イメージング、iPS 細胞、光遺伝学の新しい手法が開発され、神経回路の解明や高次機能の理解が大きく進展しようとしています。MRI や PET などの画像解析はヒトの神経科学的理解を早め、ゲノム科学は遺伝性のみならず孤発性の神経疾患の発症機構解明の手段を提供するようになりました。このような時代の学問の最先端で活躍する国内外の 6 名のトップ研究者に「神経科学が世界を変える」ことを会員の皆様に実感していただけるようなプレナリーレクチャーと特別講演をお願いしました。

また、神経科学学会は、学会挙げての強い意志と努力により、国内の学会では英語化が最も進んでいる学会です。この結果、他の学会ではみられない近隣国からの一般参加者も見かけるようになりました。しかしさらなる外国人研究者の参加を促進するよう、アジアの神経科学学会との共催企画を計画しております。次に臨床神経科学者、神経疾患研究者の参入を増加させることも当面の学会の大きな目標の一つです。この目標に向けて今大会では日本神経学会とお互いに共同企画を行う予定です。

一方、専門分化が進んで、システム神経科学、分子神経科学、臨床神経科学全体を見渡すことが困難になってきていることも大きな問題です。次世代の幅広い視野をもつ神経科学者の育成に向けて、そしてあらゆる世代の神経科学者の生涯教育にも役立つような教育プログラムを充実させたいと思います。

最後に 2014 年は会場費の値上げ等、周辺状況から、会期を 3 日間に短縮して行うことになりました。しかし内容を濃いものにして、例年に劣らない充実した大会にすべく、全力を挙げる考えです。

本来ならば本会の開催につきましては、会員からの参加費で賄うべきところですが、開催の目的を達成するには、会場の設営や学会の運営に多大の費用を要し、諸費用の不足が見込まれております。つきましては厳しい状況の中甚だ恐縮ではございますが、本会の開催意義と事情をご賢察の上、格別のご協力、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

謹白

2014 年 2 月 吉日

第 37 回日本神経科学大会 / Neuroscience2014
大会長 高橋 良輔
京都大学大学院医学研究科・臨床神経学

開催要項

1. 会議の名称 第37回日本神経科学大会／Neuroscience2014
The 37th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society
2. 会議のテーマ 神経科学が世界を変える
Neuroscience will change the world
3. 大会長 高橋 良輔（京都大学大学院医学研究科・臨床神経学）
4. 開催日時 2014年(平成26年)9月11日(木)～13日(土)
5. 開催会場 パシフィコ横浜
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1
<http://www.pacifico.co.jp/>

6. 会議の目的

神経科学分野の最先端で活躍する国内外のトップ研究者を招聘し、基礎から臨床に及ぶ幅広い分野の神経科学研究者の研究発表や情報交換の場として「神経科学が世界を変える」ことを実感できる機会とする。

また、外国人研究者や臨床神経科学者、神経疾患研究者の参加促進に向け、アジアの神経科学学会との共催企画を開催する。そして次世代の幅広い視野をもつ神経科学者の育成に向けて、かつあらゆる世代の神経科学者の生涯教育にも役立つような教育プログラムを充実させ、世界の神経科学研究の向上に貢献することを目的とする。

7. 会議の概要

(1) 会議の構成(予定)

プレナリーレクチャー、特別講演、シンポジウム、ミニシンポジウム、ランチョンセミナー、一般演題(口演・ポスター)

(2) 会議の日程(予定)

日付	午前	昼	午後
9月11日 (木)	シンポジウム 一般口演	ランチョンセミナー ミニシンポジウム	特別講演 プレナリーレクチャー シンポジウム、一般口演
9月12日 (金)	シンポジウム 一般口演	ランチョンセミナー ミニシンポジウム	特別講演 プレナリーレクチャー シンポジウム、一般口演
9月13日 (土)	シンポジウム 一般口演	ランチョンセミナー ミニシンポジウム	特別講演 プレナリーレクチャー シンポジウム、一般口演

- (3)参加予定者数 約 3,000 人
(4)使用言語 日本語／英語

8. 組織委員会

大会長	高橋 良輔	(京都大学大学院医学研究科・臨床神経学)
実行委員長	村井 俊哉	(京都大学医学研究科精神医学)
実行副委員長	望月 秀樹 萩原 正敏	(大阪大学医学系研究科神経内科学) (京都大学医学研究科形態形成機構学)
実行委員会幹事	池田 昭夫 漆谷 真	(京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座) (京都大学大学院医学研究科・臨床神経学)
プログラム委員長	渡邊 大	(京都大学医学研究科生体情報科学)
プログラム委員	青木 正志 池谷 裕二 池田 昭夫 伊佐 正 石井 信 井上 治久 岩坪 威 上村 匡 漆谷 真 大木 研一 大森 治紀 岡部 繁男 岡本 仁 小川 正 尾崎 紀夫 小田 洋一 影山 龍一郎 金子 武嗣 狩野 方伸 神谷 之康 河崎 洋志 河野 憲二 久住 一郎 久場 博司 久保 義弘 黒田 公美 見学 美根子	(東北大学大学院神経・感覚器病態学講座 神経内科学分野) (東京大学大学院薬学系研究科) (京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座) (自然科学研究機構生理学研究所 認知行動発達機構研究部門) (京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻石井研究室) (京都大学 iPS 細胞研究所) (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野) (京都大学大学院生命科学研究所 細胞認識学分野) (京都大学大学院医学研究科・臨床神経学) (九州大学大学院医学研究院分子生理学分野) (京都大学医学研究科) (東京大学大学院医学系研究科 神経細胞生物学) (理化学研究所脳科学総合センター) (京都大学大学院医学研究科 認知行動脳科学研究室) (名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野) (名古屋大学大学院理学研究科) (京都大学 ウイルス研究所) (京都大学大学院医学研究科 高次脳形態学) (東京大学大学院医学系研究科 神経生理学分野) (ATR 脳情報研究所) (金沢大学医薬保健研究域医学系・脳細胞遺伝子学講座) (京都大学大学院医学研究科 認知行動脳科学分野) (北海道大学大学院医学研究科 精神医学分野) (名古屋大学大学院 医学研究科 細胞生理学) (自然科学研究機構生理学研究所 神経機能素子研究部門) (理化学研究所脳科学総合研究センター・黒田研究ユニット) (京都大学 物質-細胞統合システム拠点)

小池 康晴 (東京工業大学 ソリューション研究機構)
後藤 由季子 (東京大学 分子細胞生物学研究所)
酒井 邦喜 (東京大学大学院 総合文化研究科 相関基礎科学系)
櫻井 芳雄 (京都大学大学院 文学研究科 心理学研究室)
定藤 規弘 (自然科学研究機構生理学研究所 大脳皮質機能研究系心理生理学研究部門)
曾良 一郎 (神戸大学大学院 医学研究科 精神医学分野)
高橋 淳 (京都大学 iPS 細胞研究所臨床応用研究部門 神経再生研究分野)
高橋 英彦 (京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座 精神医学教室)
内匠 透 (理化学研究所脳科学総合研究センター精神生物学研究チーム)
土居 雅夫 (京都大学大学院薬学研究科 医薬創成情報科学システムバイオロジー分野)
富永 真琴 (自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 細胞生理研究部門)
中村 和弘 (京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット)
那波 宏之 (新潟大学脳研究所 分子神経生物薬分野)
南部 篤 (自然科学研究機構 生理学研究所生体システム研究部門)
西川 徹 (東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野)
貫名 信行 (順天堂大学大学院医学研究科神経変性疾患病態治療探索講座)
根岸 学 (京都大学大学院生命科学系研究科・生体システム学分野)
林 康紀 (理化学研究所 脳科学総合研究センター)
服部 信孝 (順天堂大学脳神経内科)
尾藤 晴彦 (東京大学大学院医学系研究科 神経生化学分野)
平田 雅之 (大阪大学大学院医学系研究科 脳神経外科学教室)
平野 丈夫 (京都大学大学院理学研究科 生物物理学系)
藤山 文乃 (同志社大学大学院脳科学研究科 神経回路形態部門)
古川 貴久 (大阪大学蛋白質研究所)
古屋敷 智之 (京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター)
枡 正幸 (筑波大学 医学医療系 分子神経生物学)
松井 広 (東北大学大学院医学系研究科新医学領域創成分野)
松崎 政紀 (自然科学研究機構 基礎生物学研究所)
松崎 文雄 (独立行政法人理化学研究所 発生・再生科総合研究センター 非対称細胞分裂研究グループ)
美馬 達哉 (京都大学大学院医学研究科附属脳機能総合研究センター)
虫明 元 (東北大学大学院医学系研究科)
森 憲作 (東京大学大学院医学系研究科 細胞分子生理学分野)
森 泰生 (京都大学大学院地球環境学及び工学研究科)
八尾 寛 (東北大学大学院生命科学系研究科 生命科学機能専攻)
八木 健 (大阪大学)
山下 俊英 (大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学)
山中 章弘 (名古屋大学環境医学研究所 神経系分野Ⅱ)
山中 宏二 (名古屋大学環境医学研究所 病態神経科学分野)
山脇 成人 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院 精神神経医科学)
横田 隆徳 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学分野)

組 織 委 員	岡野 栄之	(慶應義塾大学医学部 生理学教室)
	金澤 一郎	(国際医療福祉大学 東京事務所)
	川人 光男	(国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所)
	木村 實	(玉川大学 脳科学研究所)
	高井 義美	(神戸大学大学院医学研究科 病態シグナル学部門)
	竹市 雅俊	(理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター)
	津本 忠治	(理化学研究所 脳科学総合研究センター)
	遠山 正彌	(地方独立行政法人 大阪府立病院機構)
	中西 重忠	(公益財団法人 大阪バイオサイエンス研究所)
	御子柴 克彦	(理化学研究所 脳科学総合研究センター発生神経生物研究チーム)
	柴崎 浩	(京都大学名誉教授)
	高橋 智幸	(同志社大学 脳科学研究科 生命医科学部)
	井原 康夫	(同志社大学 脳科学研究科)
	廣川 信隆	(東京大学大学院 医学系研究科 分子構造・動態学寄付講座)
	水澤 英洋	(東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 脳神経病態学分野)
	吉良 潤一	(九州大学大学院医学研究院 神経内科学)

9. お問い合わせ先/各種申込先

第 37 回日本神経科学大会/Neuroscience2014 運営事務局
〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下る七観音町 634
株式会社 コンベンションリンケージ内
TEL:075-231-6357 FAX:075-231-6354
E-mail:secretariat@neuroscience2014.jp

協賛シンポジウム募集内容

1. 協賛金

協賛費のうち、下記の金額を上限としてシンポジウムのオーガナイザーにお渡しし、シンポジウムの開催経費（海外からシンポジストを招聘する際の渡航費等）を支援する予定です。各セッションの金額については、別添リストをご覧ください。

協賛費	協賛費のうち講師招聘に使用する上限金額
¥1,700,000	¥680,000
¥1,500,000	¥600,000
¥1,300,000	¥500,000

2. シンポジウムの選択

確定しているシンポジウム(別添)より、協賛されたいシンポジウムをお選びください。シンポジウムのオーガナイザーには大会主催者から交渉いたしますが、承諾を得られた後であれば、企業の方から直接ご連絡をお取りいただいても構いません。

3. 企業・団体名の表示・掲載

- ・ シンポジウムのタイトルの後に、「協賛:〇〇社」(日本語)、「Sponsored by XXXX」(英語)のように、企業名を表示いたします(シンポジウムのタイトルそのものに企業名を入れることはできません)。
- ・ 上記の表示方法により、大会ホームページ、大会プログラム冊子に企業名を掲載します。大会ホームページの該当プログラム部分から、貴社・団体ホームページへのリンクを貼ることが出来ます。
- ・ シンポジウムは学術発表のための場です。そのためシンポジウムの時間中には企業の宣伝は出来ません。オーガナイザーには、最後に謝辞として企業名をあげてくださるよう大会側からお願いしますが、強制ではありませんので、必ずしも企業名が出るとは限らないことをあらかじめご了承ください。
- ・ シンポジウム会場で資料を配布することが出来ます。配布物による企業宣伝は出来ませんが、発表された研究の中で使用されている機材や試薬の紹介をしても構いません。ただし事前に大会およびオーガナイザーの許可を得てください。また本来の研究内容から逸脱しないようご注意ください。

4. 申込締切 2014年5月14日(水)

5. 協賛割当金の使途

- ・ 海外シンポジストの渡航費・宿泊費
- ・ 国内シンポジスト(学会員は除く)の旅費についてはオーガナイザーに一任する
- ・ 資料作成・印刷費:シンポジウム開催にあたり配布資料などにかかる印刷費

6. 情報公開に関して

- ・ 拠出いただきました協賛金につきまして、各社が公表することに同意いたします。

シンポジウム一覧

No.	開催日	時間	金額	セッションテーマ
S1-A-1	9月11日	9:00-11:00	¥1,700,000	iPS細胞の基礎研究から臨床応用まで
S1-A-2	9月11日	17:00-19:00	¥1,700,000	闘争と階層の神経生物学
S1-B-1	9月11日	9:00-11:00	¥1,500,000	大脳における記憶痕跡とタグ
S1-B-2	9月11日	14:00-16:00	¥1,500,000	随意運動発現の神経機構と治療への展開
S1-B-3	9月11日	17:00-19:00	¥1,500,000	脳神経回路の相互作用による行動の統合機能
S1-C-1	9月11日	9:00-11:00	¥1,500,000	脳とその病態における発振現象
S1-C-2	9月11日	14:00-16:00	¥1,500,000	体性感覚: 生体警告、運動制御、発達、自己意識のための基本感覚システム
S1-C-3	9月11日	17:00-19:00	¥1,500,000	応用脳科学の新しい地平に向けて ~シーズとニーズを結ぶ~
S1-D-1	9月11日	14:00-16:00	¥1,500,000	快・不快情動を生成し記憶する脳内メカニズム
S1-E-1	9月11日	9:00-11:00	¥1,300,000	小脳のシナプスと運動の制御
S1-E-2	9月11日	14:00-16:00	¥1,300,000	神経発生と疾患におけるRNA制御機構
S1-E-3	9月11日	17:00-19:00	¥1,300,000	Brain Proteinopathy 2014
S1-F-1	9月11日	9:00-11:00	¥1,300,000	時計遺伝子のその先にあるもの: 視交叉上核神経ネットワークがつくる哺乳類の時計機構
S1-F-2	9月11日	14:00-16:00	¥1,300,000	BMIとニューラルオペラントによる神経活動の随意的制御
S1-F-3	9月11日	17:00-19:00	¥1,300,000	脳広域ネットワークの機能構築イメージングにむけた挑戦
S2-A-1	9月12日	9:00-11:00	¥1,700,000	神経発生・発達におけるクロマチン制御(epigenetic制御)の役割
S2-B-1	9月12日	9:00-11:00	¥1,500,000	Sculpting the neuronal intracellular environment: from single molecule behavior to local signal integration
S2-B-2	9月12日	15:00-17:00	¥1,500,000	大脳新皮質神経回路解明への最前線
S2-B-3	9月12日	17:30-19:30	¥1,500,000	光遺伝学や化学遺伝学を用いた神経回路機能操作と行動制御
S2-C-1	9月12日	9:00-11:00	¥1,500,000	日本-韓国神経科学学会 合同シンポジウム(タイトル未定)
S2-C-2	9月12日	15:00-17:00	¥1,500,000	Motor Neuron Disease Update; En Route to Therapeutic Targets
S2-C-3	9月12日	17:30-19:30	¥1,500,000	Neuronal signaling for development and plasticity
S2-D-1	9月12日	15:00-17:00	¥1,500,000	大人の脳の若返り
S2-E-1	9月12日	9:00-11:00	¥1,300,000	ALS治療法開発への神経科学の挑戦
S2-E-2	9月12日	15:00-17:00	¥1,300,000	脳内環境の恒常性破綻とグリア疾患
S2-E-3	9月12日	17:30-19:30	¥1,300,000	脳神経・精神疾患における自然免疫分子の役割
S2-F-1	9月12日	9:00-11:00	¥1,300,000	理論と実験の共軌による神経回路の機能解剖
S2-F-2	9月12日	15:00-17:00	¥1,300,000	内因性カンナビノイド、2-アラキドノイルグリセロール、による神経回路機能調節
S2-F-3	9月12日	17:30-19:30	¥1,300,000	小規模モデル動物による脳機能の基本原則へのアプローチ
S2-G-1	9月12日	15:00-17:00	¥1,300,000	感覚入力依存的な神経回路再編
S2-G-2	9月12日	17:30-19:30	¥1,300,000	神経シグナルの放出と受容の新規分子機構
S3-A-1	9月13日	9:00-11:00	¥1,700,000	Neuroimmunology Cutting Edge Symposium: Mechanisms of Immune-mediated Neurological Disease
S3-A-2	9月13日	17:00-19:00	¥1,700,000	記憶情報の統合と分離に関わる神経回路の最前線
S3-B-1	9月13日	9:00-11:00	¥1,500,000	直接路・間接路モデルから28年: 大脳基底核の包括的理解を目指して
S3-B-2	9月13日	15:00-17:00	¥1,500,000	局所および脳領域間回路での計算原理: スパイク相互作用とオシレーションを中心として
S3-B-3	9月13日	17:00-19:00	¥1,500,000	共感性の神経基盤
S3-C-1	9月13日	9:00-11:00	¥1,500,000	超高解像度顕微鏡による脳の基本原理へのアプローチ-現状と今後の展開-
S3-C-2	9月13日	15:00-17:00	¥1,500,000	脳の疾患理解に繋がる動物モデル
S3-C-3	9月13日	17:00-19:00	¥1,500,000	注意の脳内ネットワーク
S3-D-1	9月13日	15:00-17:00	¥1,500,000	脳構築研究のパラダイムシフト
S3-E-1	9月13日	9:00-11:00	¥1,300,000	トランスポーター(EAATs/VGLUTs)によるグルタミン酸分布の時空間制御と精神・神経疾患
S3-E-2	9月13日	15:00-17:00	¥1,300,000	血液脳関門制御の最新の知見
S3-E-3	9月13日	17:00-19:00	¥1,300,000	蛋白質・オルガネラ品質管理病としてのパーキンソン病
S3-F-1	9月13日	9:00-11:00	¥1,300,000	神経発達障害と正常脳形成: 神経分化と移動による脳機能の運命決定
S3-F-2	9月13日	15:00-17:00	¥1,300,000	コネクトミクス研究の動向と課題
S3-F-3	9月13日	17:00-19:00	¥1,300,000	脳での痛みのメカニズム
S3-G-1	9月13日	15:00-17:00	¥1,300,000	脳の現実感を操作する一げっ歯類の神経科学におけるバーチャルリアリティの可能性

第 37 回日本神経科学大会/Neuroscience2014

協賛シンポジウム申込書

申込年月日: 年 月 日

1. 申込内容

- 協賛シンポジウム

第1希望 番号 _____ テーマ _____

第2希望 番号 _____ テーマ _____

第3希望 番号 _____ テーマ _____

※決定に関しましてはお申込み順とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

- 社名(大会ホームページ、大会プログラム掲載用) ※日本語表記の場合は(株)、(財)などになります。

日本語	
英語	

2. 御担当者

貴社名:(日本語) _____ /(英語) _____

所在地: 〒 _____

御担当者: _____ 所属部署: _____

TEL: _____ FAX: _____

E-mail: _____

備考

--

【お問合せ及び申込書送付先】

第 37 回日本神経科学大会 運営事務局

〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下る七観音町 634 株式会社 コンベンションリンケージ内

TEL:075-231-6357 FAX:075-231-6354 E-mail:secretariat@neuroscience2014.jp